



「命を守る弁護士」

衆議院東京16区総支部長  
**柴田 かつゆき**

しばかつ通信 第003号(2023.11.25)

「なんでも相談会」巡回中!



## 防衛費倍増が日本を衰退させる — 軍備の増強よりも国民の生活を守れ —

日本の防衛費は、1976年の三木武夫内閣による閣議決定以降、長年にわたり国内総生産(GDP)比1%程度を維持してきました。(例えば、1976年はGNP予測168.1兆円に対して防衛費1兆5124億円、2022年は名目GDP556.5兆円に対して防衛費5兆4005億円でした。)  
**「防衛費1%」は、防衛力整備の必要性と、日本の経済規模や他の政府支出とのバランスを保つ目安として機能してきたのです。**

2021年9月の自民党総裁選挙で高市早苗氏が「防衛費倍増(GDP比2%)」を掲げた時、私を含む多くの人が驚いたのはもちろん、これが本当に実現するとは予想していなかったのではないのでしょうか。ところが、国会での議論も経ることなく、2022年12月、岸田文雄首相は防衛費倍増の方針を明記した防衛3文書を閣議決定しました。

これにより2023~27年度の5年間の防衛費は合計43兆円とされ、2023年度の当初予算で6兆8219億円、補正予算案でさらに約8000億円、2024年度概算要求でも7兆7385億円が計上されており、その後も増額を続けて最終的には米国・中国に次ぐ世界第3位の軍事予算になると予想されています。しかも、財務省によれば**少なくとも年間1兆円の増税**が必要とされています。

この30年間経済がほとんど成長しないなか(1992年の名目GDPは505.1兆円で、その後30年で10%しか増えていません)、**格差拡大と物価高で多くの人が苦しみ、少子化による人口激減という国家的危機を迎えている今の日本にとって、世界第3位の防衛費は「身の丈」に合いません。**

岸田首相は「異次元の少子化対策」のための「子ども・子育て予算倍増」を唱えましたが、実際には2022年度予算で4兆6871億円だったのが2023年度予算では4兆8104億円と、2.6%しか増えていません。小中学校の給食無償化には4386億円、児童手当(月15,000円)の支給対象を高校生まで延長し親の所得制限を撤廃するには約1兆円、大学授業料の無償化には約1兆8000億円かかりますが(2022年6月3日付東京新聞)、**防衛費増額分のうち約3兆2000億円を子ども・子育て予算に使えば、給食の無償化・児童手当の延長と所得制限撤廃・大学の無償化を全て実現できます。**

その他にも、物価高で目減りした年金の増額、健康保険の保険料や自己負担の軽減、教育・介護従事者の待遇改善、中小企業の賃上げ支援、災害対策など、国民の生活を助け日本経済を再生するための支出はいくらでもあります。他国が日本を攻撃してくるのではないかといった不確かな不安(しかも防衛費を倍増しても不安は解消されません)よりも、まずは**国民生活を助け、国民を豊かにするためにこそ、国のお金を優先的に使うべきです。**

さらに見逃せないのが、**外国からの兵器購入による国富流出・経済成長阻害効果**です。

そもそも政府支出の増額は「国のお金がなくなること」を意味しません。日本国内で支出される限り、政府の支出=国民の収入ですので、国(政府+国民)のお金の総額は変わりません。そして政府支出の増加には、そのお金を受け取った国民が使えるお金を増やし、その使ったお金を受け取った国民

が使えるお金も増やし、またそのお金を受け取った国民が…という経済波及効果があります。また社会保障支出の経済波及効果は公共事業支出などと比べても高い（例えば保健衛生部門への支出は、支出額の6.106倍に及ぶ経済波及効果がある）とされています（兪炳匡(ゆうへいきょう)著「日本再生のための「プランB」」(集英社新書)）。

しかし、**防衛費を外国からの兵器購入に使った場合、日本国内では経済波及効果が発生しません。**防衛費倍増が必要になったのは米国からの高額な兵器購入のためといわれています。極めて大ざっぱな計算ですが、倍増で増える5兆円が外国からの兵器購入に充てられるとした場合、同額を日本国内での社会保障支出（経済波及効果6倍）

に充てた場合と比べて、毎年5兆円×6倍=30兆円もの経済波及効果が失われ、日本の経済発展が阻害されることになるのです。

このように「**防衛費倍増**」は、**他の政府支出とのバランスを欠き、今の日本の「身の丈」に合わない政策であり、1兆円以上の増税・国民生活のための予算の削減・外国への国富流出による経済成長阻害により、さらに日本経済を衰退させ、国民を苦しめる（富国強兵ならぬ「貧国強兵」）政策です。**しかし、**自民党政権が続く限りこれを止めることはできません。**

**次回の総選挙で政権交代を実現し防衛費倍増をストップできるよう、皆様のご支援をお願いいたします。**

## 柴田かつゆき プロフィール

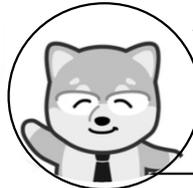
1968年10月生まれ  
開成高校・東京大学法学部卒業  
弁護士  
元 司法研修所教官（刑事弁護）  
第二東京弁護士会副会長  
森・濱田松本法律事務所パートナー

いつでも、どこでも

## 「なんでも相談会」巡回中！

お困りごとや政治へのご意見など、なんでも・いつでも・どこでも、柴田かつゆきにお声掛けください。しばかつくんの「なんでも相談会」のぼり旗が目印！

メール office.kshibata@gmail.com や  
電話 050-8886-1651 でも受付中です！



柴田かつゆき事務所 公認キャラクター  
しばかつくん

## 柴田かつゆきの「好き」

趣味：大東流合気武術（初伝初段）・柔道（3段）・何かを読むこと（マンガ含む）

家族：妻（薬剤師）

座右の銘：不貪不瞋不痴（みんなのために、明るく、頑張る）、実力も運のうち

## 編集後記 事務所スタッフの「独り言」

柴田かつゆきがよく言われる「温和な人」「ガツガツしない人」というイメージは、近くでみている私もその通りの印象を持つ。事務所の中でも狭い車の中でも運転手やスタッフに気を配っている、そんな人だ。

ただ、それは元来柴田が生まれ持った性質ということではないのではないかと思い始めたのは最近のこと。座右の銘をみてもわかるように、自分自身を律することに努めてきた人なのではないかと思うようになった。それは政治分野で、特に社会保障や経済政策について語るとき、いつも笑顔の柴田の目に、炎のような輝きをみることがあるからだ。

私は柴田かつゆきに、私たちが政治にもつ不信や怒りを託したい。そう思っている。

スタッフN

SNS更新中！

QRコードよりチェック！



柴田かつゆき事務所

〒134-0091 東京都江戸川区船堀1-4-10 第2乙女屋マンション604

電話：050-8886-1651 FAX：050-3488-7290 メール：office.kshibata@gmail.com